

ふのは實際試て見ると毛氈花壇には随分花が入用なもので、とても五十株や百株では足りない、然し一坪位のものなら左したる事も無いから庭先などに設けて面白からう、普通地面より五寸位の高さに土を積んで周囲を芝で圍ふ、形は庭の模様にも依るし又各人の嗜好もあるから如何様とも、角形なり圓形なりそれは自由であるが、花の植付けは充分注意して色の配合を誤らぬ様にせねば見榮えがせぬ又成るべくは花で一の模様とか又はある形を現はす様にしたら面白からう。

▲今頃美しく花壇を飾て居る花は大抵秋播きのもので温室で育てたものか又は球根類である、従て春の花壇は比較的手数と費用が要るが、然し秋の花壇は容易に出来る、春の花で培養の樂なもの無論球根類でヒヤシンス、チユリップ、アネモネ、水仙等が主である、花壇の縁には雛菊が可いと思ふ、これは宿根であるから、手数が要らぬ、又パンヂー等も面白い、それで春の花壇は此等の花を中心にして作れば随分立派なものが出る。

▲秋の花も昨今種子を下す頃であるが、大抵六七

月位から咲き初めて十月末位までは絶えず續て咲くので、秋の花壇は中々賑かである、先づ素人に簡單にして出来るものは百日草、るぞ菊、天人菊、貝細工、ペチュニヤ、松葉牡丹、金魚草、美女櫻、葉鶏頭、サルピヤ、コスモス等で苗床に唯播て置けば充分なもの許りである。

▲肥料は兎角面倒であるが、而し一二回施肥すると結果が非常に違ふから、是非夫れだけは必要である、素人に都合の可いのは油糟で、之れは日蔭に水と交せて腐らして置いたものを使用ふ、唯一寸注意しなければならぬ事は種子の善悪で、普通草花の種子は一年以上も経過と發芽せぬから十分信用ある花屋から種子は買ひ入れる必要がある。

小鳥の話

川生

盆栽や園藝も樂しみな物ですが小鳥を養ふのは又この中に一種云ふ可からざる樂しみのあるもので

す。小供の方などの學校の暇に餌をやり水をやりなど小鳥にしまするのは身體上の健康にも精神上にも益する所決して些小ではないと思ひます。鳥にも御存知の通りいろいろの種類の鳥があつて大小の別もありました。或はその羽毛の美を愛玩する鳥もありました。或は又その囀へづり聲をきゝてたのしむ種類もあります。驚のやうな猛鳥もあります。れば鳩のやうなやさしい鳥もあります。今左に普通の小鳥で一寸飼養しやすいやうなもの二三種をのべて見ませう。勿論詳細な事はとても一朝一夕にかきつくせるものでもありませんからたい御たのしみに小鳥を飼つて見やうと云ふ方の御参考にまでなれば此の上もない幸です。

紅雀

極普通の小鳥で黄雀と云ふのより又小さい可愛らしい小鳥です。小鳥の中でも比較的小さい部類に属する種類で色は薄色に細かなる白と赤との斑點があります。全身に紅色がかゝり赤い小さい斑點のたくさんあるのがよいとしてあります。囀り方は雌はまるで雀のやうにジュー〜と申しますが

雄は中々よい可愛らしい聲で囀ります。囀もそう悪くなく殊に羽毛が頗る美麗ですから愛玩用の小鳥として大層珍重せられてをります。あまり丈夫な鳥ではありませんが寒中暖かにしておけばめつたに死ぬものではありません。餌は粟又は稗などですから大して手のかゝる事ありません。

文鳥

之れは唐鳥の一つにてむかしは大層愛玩されたものだと云ひます。形は大體鸞に似てゐて頭ら黒く頬丸くて白色です。腹は白きのも薄あかきのもあります。嘴と足とは薄赤色にて脊はねすみ色です。餌は粒餌にて摺餌にてもよろし。

金絲雀

かなりやは西洋から渡つてきた鳥の中の一つで最も普通のものです。之には種々の珍らしい種類もあつて従つて價も随分不廉のものもあります。毛羽は黄色で囀づりも面白いものです。殊に此の鳥は籠の中で卵から雛をかへす鳥ですから一層樂しみの深いものです。雌の卵を産みました時は雄は他の籠にうつして卵がかへりましたら雄をまた元

の籠にかへすのです之れは中にはくせの悪い雄鳥は卵をこわしたり食べたりする事がありますからです雛がかへりましたら成可く早く雄をもとの籠に即雛鳥と一所にする方がよいのですあまりおそくもどすと雛をいじめていけません。餌は粟黍の類に青味には葉のまゝを與へるのです今頃ならば「ハコベ」などはその喜んで食べる所ですその外少しの水をやつておけばよいのです。

十四まつ

これ大層小さな鳥で別に大して愛玩すべき羽毛の美もなく囀づりも面白い鳥ではありませんがたよく巢引をする小鳥です。巢引とは籠の中で雛をかへす事を云ふので巢引の注意は金絲雀と大體同じ事です。餌も金絲雀と同じ事で粟や黍の類を與へ青味を與へてをけば澤山です雛をよくかへしますから飼養して面白い鳥です。

山雀

山からは丁度雀程の大きなにて羽毛の色は棒色に白黒又は濃鼠の斑点があります。此の鳥は色々の藝を仕込む事のできる小鳥にして淺草の花屋敷に

あります山からの藝當などまでゆかずとも籠の中にて宙返り位の藝は覺えるものです。

これは普通ありふれた鳥で羽毛はあまり美麗ではありませんが囀りのよい鳥です。籠の上へは網張となして下には砂を入れて飼養するのが普通です。朝草の上に露を置いてあるのをふませると聲もよく出ると古來申してをります風通りのよい所に籠を置きあまり太陽に照りつけられるのはよくないと申します。

その他鳥鶉類白。深山類白。かしら。あほじ。九官鳥。黄雀等いろ／＼種類があります以上は皆餌と云つて播餌でない粟とか黍とかをすぐやつておけばよい種類です従つて手數もかゝらず又播餌の鳥よりはならして飼養し易いものとなつてをります。但し餌の鳥でも播餌をやつてもよいのもあり又時には播餌を與へる方がよい場合もあります。次ぎに播餌の部の二三の小鳥を擧げて見ませう。

こま鳥

雀より少し大きく全身は赤黒き色に青味をもち頭より喉にかけて赤く夏は鼠色のもあり又然らざるもあり此の鳥は紅雀などが寒氣を嫌ふ反對に暑氣をきらふ者ですから暑中は氣をつけて涼しき所におき飼養し。暑中にはよく目を煩らひますから目をわづらう時には柳の枝の皮をよく煎じ冷して目を洗つてやると全治すと云ふ事です。飼は

一生ゑ 四分

一粉 壹匁

一小松菜等 少量

をよく播り與へるのです近頃はたい水を入れて播りさへすればよいやうに出来てゐる播餌の粉があります。然し小さな播餌で播つて與へるのも面白い樂しみな物です。

此の鳥は全身所謂るり色にて大層美麗な小鳥です。色鳥中インコの類を除きては第一に美しくしい鳥で大きさは鶯位にて喉より腹にかけて白色にて寒氣を恐るゝ鳥なれば冬期は注意にも注意して暖かにしてやらねばなりません。餌は

一生餌八匁。一紛一匁。一あをみ多量。一體生餌の分量を増すに従つて青味の分量をも増すのが普通です。

繡眼兒

之も別段飼養法の大してむづかしき鳥でもありません。但し罔として用ゆるには春は嘔づらぬやうにし淡白な餌を與へ明るき所に出さず暗所に置いて夏になりましたら生餌を減じ秋になつてはじめて生餌を増すのです。そして郊外などにつれゆけば高音に嘔づります。従つて餌の分量も一定しませんが九月拾月頃には大低左の分量です。

一生餌六分。一粉一匁。一あをみ多量。

角鴟

みづくは梟のやうな形のかかなり大きな鳥です。これも愛玩用でもなく又聲をきくのもありません。が「づく引」として此の鳥を罔としていろ／＼の他の小鳥をとる事が出来ます。秋の日など天氣のよき折角鴟をたづさへ郊外にゆき森の薄暗きところに角鴟を止まらせ置けば種々なる鳥がきますからその近傍にもちのついた小枝を多く置けばそれに

止まりて小鳥は容易にとれます鷹狩のやうな手腕も熟練も要せず一寸面白き遊びです。角鴉は鳥とは耳の有無によつて區別するのです鳥には耳がありません。餌は普通小鳥の肉又は新らしき魚の肉以上はほんの二三に過ぎませんがまたよき折を見て詳しく陳べませう終りに一寸播餌の事を申しませれば生餌は一凡に河又は沼の魚ならばよいのです海の魚は適しません一汎に鮒又は「ハイザゴ」河るびの類を用ひます又粉には玄米一合五勺に糠五合位の割合に致し用ひあをみは大根葉芹などそれそれれありますが大抵にてよろし播餌の原料は前述の如く小鳥屋で賣つてをりますから鳥屋より買求める方便利です。鶏の卵をゆで、黄味の所だけを細かに碎き折々與へると小鳥は壯健になります。又籠掃除を忘れてはいけません不潔にすれば羽虫の生ずる原因となりましますし羽虫の生じた時は煙草の煙りを尾の方より逆にふきかける時は大抵羽蟲は死にましますし一度でいけなければ三四度すれば成功します。最後に小鳥の價へは高いのにはきりがありませんが先づ普通。紅雀番ひ七十錢位。

金絲雀番ひ一圓四十錢位より十四まつ番ひ七十錢位。めじろ一羽二十錢位より文鳥番ひ八十錢位よりもつとも之より廉價のも高價のもあります山雀が只今頃ならば雄一羽八十錢位秋になればすつとやすくなります。こま鳥はあらごまで一圓四十錢位の所です。

